

平成 22 年 8 月 1 日

手足口病という病気をご存じでしょうか？最近、西日本を中心にこの病気にかかる患者さんが増えています。手足口病は特に小児に多い病気で、手足や口に水疱性発疹（水ぶくれ）が現れます。

今回は、「手足口病」についてお話をしたいと思います。

●「手足口病」ってなに？

手足口病は、手のひら、足の裏、口の中に現れる水ぶくれを特徴とした疾患で、エンテロウイルスやコクサッキーウイルスなどに感染することで発症します。水ぶくれの他に発熱が見られることもあります。また、水ぶくれによる口の中の痛みとそれによる食欲低下も見られます。

頭痛、高熱が続く場合には、髄膜炎や脳炎などの合併症へと進展している可能性があります。しかし、これらの合併症に進展する可能性はごく稀です。



●どうやって感染するの？

主にくしゃみなどを介して人から人に感染します。患者の糞便・水ぶくれの中にはウイルスが存在しているので、接触することにより感染することもあります。

●どんな人が感染するの？

手足口病のウイルスの感染は、とくに4歳ぐらいまでの幼児に多く、学童でも流行することがあります。成人での場合では、以前にこれらのウイルスの感染を受けていることが多く、体内に抗体ができていたため発症はあまり見られません。

●かかりやすい時期は？

流行のピークは夏ですが、秋から冬にかけても多少の発生が見られます。

●手足口病の治療

通常、特別な治療を要しないことが多いですが、水ぶくれにかゆみを伴う場合には、かゆみをおさえるためにアレルギー薬を塗ることがあります。発熱が軽度の場合には薬を使わず経過観察し、38℃以上の場合にはアセトアミノフェンなどの解熱剤を使うことがあります。

口の水ぶくれによる食欲低下には、刺激にならないような柔らかめで薄味の食べ物が適しています。また夏に多い疾患のため、食事・水分摂取が十分でないと脱水症状になります。そのため、刺激の少ない薄いお茶やスポーツ飲料などで水分を少しずつこまめにとるようすることが何よりも重要です。

●手足口病の予防は？

手足口病の原因ウイルスに対する有効なワクチンは開発されていません。予防としては、

- ・手洗いの励行（患者・回復者に対しては特に排便後の手洗いを徹底させる）
 - ・汚れた衣服をこまめに洗濯する
- といった一般的な注意が必要です。

また、回復した後もウイルスがしばらく残っているため、蔓延を防ぐためにも、回復後少なくとも10日間はプールの使用を控えることが望ましいとされています。



●手足口病 Q&A

Q.1回かかったらもうかからないの？

A.通常の感染症は一度かかると体内に防御システムができ、同じ病気にはかかりにくくなりますが、手足口病は複数のウイルスによって引き起こされるので、別のウイルスによって再び手足口病にかかることがあります。

Q.合併症になったらどうしたらいい？

A.手足口病による髄膜炎、脳炎の治療法は確立されていませんが、一般的なウイルスによる髄膜炎、脳炎の治療法に準じた治療を行います。

Q.ウイルスに感染したらすぐに水ぶくれが出るの？

A.水ぶくれなどの症状が出るのは感染してから3～5日後ぐらいだといわれています。

Q.水ぶくれはどれぐらいで消えるの？

A.発症してから一週間ぐらいで消えます。跡が残ることもありません。

●手足口病になったら・・・

手足口病は、インフルエンザなどとは違って発症しても必ずしも学校を休ませる必要はありません。症状は軽いので、脱水や合併症がなく水ぶくれだけの状態ならば、長期に欠席させなくてもいいですが、回復した後もウイルスがしばらく残っているため学校でも手洗いを徹底させるようにすべきです。



<参考>

- ・ I DWR 感染症週報. 2001 年第 27 週、2010 年第 24 週